

令和2年度市民活動推進事業の
事業報告及び収支決算書

事業名：ドローンを用いた災害情報等収集・表示システム（継続）及び操縦教育基盤の整備

令和2年度は、平成30年度からの継続事業（3年目の事業）として取得したドローンを用いて、災害発生時における被災情報の収集・伝達態勢の基盤構築に向けた体制整備及び映像伝送に必要な知識・技能の習得・向上を事業方針として、次の具体的な事業目標を掲げ活動を行ってきました。

第1の具体的事業目標は、当団体が「ドローンを活用した防災・減災対策に取り組んでいる団体」であることを広く認知して頂くこと。

第2の具体的事業目標は、当団体が「ドローンの飛行に関し高度な知識・技能を備えていること」をアピールできるよう、国土交通省が認めるドローン操縦認定校として認可を受けること。

以上、2つの目標を掲げて実施した成果は、次のとおりとなります。

1 ドローンを活用した防災・減災への取り組み

令和2年度は、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、年度に計画していた自治会の行う防災訓練に参加してドローンの展示飛行を行い、災害発生時にドローンが被害状況の把握に大きな威力を発揮できることを身近に体験・紹介できる機会を失くしてしまいました。

しかしながら、そのような状況の中、三重大学病院から将来ドローンを取得し、大規模地震による被害状況を上空から確認できる態勢を整備したいとの相談を受け、次のとおりドローンの無料体験操縦会及びドローンによる被害映像のリアルタイム伝送のデモンストレーションを実施し、多くの方にドローンの有効性について理解して頂きました。

(1) 令和2年8月5日（水）～6日（木） 参加人員：10名

三重大学体育館において三重大学病院の防災担当者及び災害派遣医療チーム（DMAT要員）に対して、ドローンの無料体験操縦会を実施しドローンの操縦体験をして頂くとともに、展示飛行を実施し上空からの映像を対策本部を模擬した部屋にリアルタイム伝送を行い、対策本部において多くの方が上空からの映像をリアルタイムに見られることを体験して頂き、ドローンが被害状況把握等に大きな威力を発揮することを確認して頂きました。（写真1参照）

(2) 令和2年11月5日（木） 参加人員5名

8月に実施した映像のリアルタイム伝送の展示を体験した結果、今後三重大学病院としても映像のリアルタイム伝送態勢を整備したいとの相談受けリアルタイム映像伝送の実地検証を行い、必要な物品等の取得等に関する技術的アドバイスを実施しました。

(3) 令和3年2月20日（土） 参加人員：三重大学病院の計画による。

三重大学病院からの依頼により、三重大学病院の防災訓練におけるドローンの飛行訓練項目に関してアドバイザーとして参加し、大規模地震を想定した訓練において被害状況を想定したドローンの飛行映像を対策本部にリアルタイムで伝送する、当団体が事業として提案している「災害情報等収集・表示システム」をアドバイザーとして支援参加しました。（写真第2参考）

事業
成果

2 国土交通省が認める「ドローン操縦認定校」としての認可手続き
ドローンの体験講習及び展示飛行を行うにあたっては、地方自治体等の公共機関によっては国土交通省の認める公認ドローンスクールであること等の条件が付けられていることから、ドローンの無料体験操縦会等による安全飛行普及の活動の幅を広げるためにも、国土交通省が認める「ドローン操縦認定校」としての認可を取得することにしました。

- (1) ドローンの飛行訓練を指導する上で、団体に国土交通省からの認可を取ることが必須となるため、当団体のドローン担当者に対しドローンの操縦技量向上と国土交通省の認定校としての条件を満たすため、教官要員1名あたり50時間以上の飛行経験を積むための訓練を実施してきました。
- (2) 国土交通省の認定校となるため、各種規則、マニュアル、テキスト等の作成・整備を実施しました。
- (3) 前各号の準備を行い、令和2年6月1日(月)国土交通省からドローン操縦認定校としての認可を受けることが出来ました。
- (4) その他の活動として、当校には防災士、上級無線技術有資格者が所属するという特色を活かし、自治会から防災簡易無線の使用法の普及教育を依頼され、無料講習会を実施するとともに、防災・減災にドローンを活用した当団体の取り組みを紹介しました。
(令和2年7月19日 参加人員約20名)

3 効果

(1) 直接効果

ア 令和2年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、自治会が行う防災訓練において展示飛行は実施できなかったものの、三重大学病院から大規模災害に備えドローンを取得し、防災・減災に活用したい旨の相談を受け、ドローンの無料体験操縦会及び上空からの被害映像のリアルタイム伝送のデモンストレーションを行い、映像伝送の技術アドバイスを実施した。

無料体験操縦会及び映像伝送のデモンストレーションを通じ、令和2年度は災害時におけるドローンの有効活用について実践的に紹介でき大きな成果があったものと考えております。

令和3年度も三重大学病院の経験を活かした自治会レベルで行う防災訓練等において、展示飛行を行い被害時におけるドローンの有効活用について普及を実施していく所存です。

イ 令和2年度は、国土交通省が認める「ドローン操縦認定校」としての認可を受け、ドローン操縦の普及活動に大きな信用と知名度を得ることが出来ました。

令和3年度も国土交通省の認定校として教育レベルの向上に努めるとともに映像伝送技術の更なる向上及び普及に努力したいと考えております。

(2) 間接効果

ア ドローンを活用した防災・減災に対する当団体の取り組みは、市民レベルで防災活動に参加し実践している団体として、防災・減災に対する意識向上に一役買っている効果があるものと考えます。

イ 近年、安価で高性能なドローンの普及が進み、無秩序で危険な飛行が散見される背景から航空法の規制が厳しくなっている現在、元実機のヘリコプターパイロットが所属する当団体(非営利法人)のドローン操縦認定校の行う市民を対象とした無料体験講習会はドローンの安全飛行の普及にも貢献しているものと考えております。

令和 2 年 度 市 民 活 動 推 進 事 業 の
事 業 報 告 及 び 収 支 決 算 書

収 入			支 出		
項目及び内容	金 額	市費充当額	項目及び内容	金 額	市費充当額
市交付金	円 141,127	円 141,127	交通費	円 5,000	円 0
自己資金	141,127		消耗品費	59,994	42,497
			印刷製本費	20,000	10,000
			保険料	37,260	20,000
			委託料	110,000	18,630
			備品購入費	50,000	50,000
合 計	282,254	141,127	合 計	282,254	141,127